【府中市政報告】Vol.16　平成27年3月20日

■発行所 山上みのる事務所
〒183-0056 府中市寿町3-9-18

府中市議会議員

山上みのるのペンギンレポート

春の拡大号

「大切なものを守りたい　いのち・そだち・まち」これは、民生・児童委員や社会福祉法人の役員、学校評価委員などを経験した私の基本テーマです。一般質問や委員会の場面では、このテーマに沿った政策・事業の提案などを行ってまいりましたが、4年という節目を迎えるにあたり、みなさまにご検証いただきたく、これまでの活動実績をご報告いたします。

大切なものを守りたい

いのち そだち まち
～明日につながる確かなみち～

社会で しっかり支える

- 難病の子、障がいのある子、発達に遅れのある子の療育・相談・支援の充実を求めて。
- 高齢者や障がいのある方が住み慣れた地域で、いつまでも安心して住み続けるために。

子どもたちに 手渡す未来

- 災害に強いまちづくりを求めて。
- 歴史ある景観を維持・保存・活用するために。
- 誰もが支えあい協働するまち“コラボするまち府中”に向けて。

すべては 人づくりから始まる

- 子育て環境の整備と0歳からの医療・福祉・教育の連携で、そだちを保障する。
- 教育は感動と感化！よりよい教育環境、特別支援教育の充実を求めて。

【ご意見ご要望をお寄せ下さい】TEL･FAX 042-366-3543　E-mail yamagami_229@nifty.com　URLhttp://yamagami.a.la9.jp/

4年間の議会での活動実績

いのち

●住み慣れた地域で住みつづける「終の棲家」の推進

●児童発達支援センターの創設

平成24年4月に設置予定だった児童発達支援センターは、いまだに設置されていません。一方、「あゆの子」の発達相談・支援は増加傾向です。廃園予定の市立幼稚園に「あゆの子」を移転し、児童発達支援センターとして発達支援の充実を図るべきです。

●成年後見制度の支援・推進体制の構築

●中学校の知的固定学級を新甲州街道以南に早期設置

中学校の知的固定学級は、３校全てが新甲州街道の北側にあるため、新甲州街道の南側に住む子どもたちの多くは、長時間の通学を強いられています。26市中、13市がスクールバスなどの通学支援を行っていますが、府中市では行われていません。中学校の知的固定学級を新甲州街道の南側に設置すべきです。

●「あゆの子」の相談・支援の専門性を高める

●老人保健施設の在宅復帰率を改善

府中市の老人保健施設の在宅復帰率は、全国的にも低い状況です。高齢者が病院から退院した後、住み慣れた住まいで生活できるような在宅復帰に向けた改善策が必要です。

●障害のある子のために支援員配置

学校において、障害のある子の介助を保護者が行っています。大きな負担となっているため、負担の軽減が必要です。
⇒平成27年度から介助員を配置

●避難行動要支援者の避難支援の体制強化

●「郷土の森」駐車場の車いす駐車スペースの周辺整備

郷土の森の駐車場が舗装されていないため車いす駐車スペースを舗装して安全確保

そだち

●学校を核にしたコミュニティ・スクールを推進

●発達支援専門職による支援体制の構築

学校において、発達障がいの児童・生徒に対する認知やコミュニケーションの支援・援助の体制が整っていません。教育センター内に発達支援の専門家チームによる支援・援助体制を構築することが必要です。⇒平成27年度から教育センターに言語聴覚士を配置

●学校・教育委員会改革！学校裁量予算を導入

学校裁量予算制度を導入している自治体では、教員が子どもたちと向き合う時間ができ、教育委員会も教育政策全般にわたった取組みが可能となっています。

●「子育てサポートファイル」の導入

子育て・福祉・教育各部門の連携を図ることを目的に、「子育てサポートファイル」を導入する自治体が増えています。「子育てサポートファイル」を活用し、ライフステージごとの相談・支援を充実させることが必要です。

●小・中学校のすべての特別教室に空調施設を整備

●小・中学校の連携教育の推進

●地域における子育て支援の充実

●「プレイパーク」の整備

子どもは、小さなころから自然と触れ合い、自由にさまざまな体験を重ねることで、社会性、自立性が育まれます。近隣市にもある「自由に遊べる公園」の整備により、子どもの発達環境を整えるべきです。

●中学校の宿泊学習「自然教室」の復活

中一ギャップにも有効な手立てだった宿泊学習の「自然教室」が、小学校の「セカンドスクール」導入のため廃止されました。その結果、中学校の宿泊学習は修学旅行だけになってしまいました。26市の中でも府中市だけです。

●歯磨き指導の全校実施

現在、歯磨き指導が行われていません。学齢期に歯周病が始まるといわれ、残念ながら、府中市内の小・中学生の歯周病に罹っている数も増加傾向です。

まち

●エリア・マネジメントの導入

エリア・マネジメントは、地域の魅力を向上させ、地域の価値を高めます。けやき並木周辺においてエリア・マネジメントを活用し、にぎわいのあるまちづくりの推進を図るべきです。

●事業者・団体や遠方自治体と災害協定を締結し、災害時の避難対応を強化

●生涯学習センターの運営は、指定管理者・府中市・市民の協働により充実を図る

●NPOや市民、市民団体からの提案に基づく市民協働事業の事業化

●地域支援活動の拠点として空き家を活用

府中市においても空き家が増える傾向がある一方、市民や市民団体が地域において活動するための地域拠点が不足しています。ＮＰＯの活動拠点、フリースクール、高齢者支援などに空き家を活用できる体制が必要です。

●新しい市庁舎を府中駅と府中本町駅を結ぶ戦略的拠点として建設

府中本町駅の出入り口を現在より北側への設置や市庁舎に商業エリアを併設する、また買い物客等が土日も徒歩で街を回遊するための駐車スペースの確保を図るなど、まちづくりの一環として、戦略的にとらえるべきです。

●下水道施設の早期耐震化により、災害時のマンホールトイレを確保

●さくら通りの危険箇所の早期補修・改修

府中街道との交差点
安全確保のため
歩行者滞留スペースの整備

桜の根上りによる鋼鉄製枠の撤去と段差解消

山上みのるの4年間の活動スナップ

大島の視察

災害当時、陣頭指揮を取られた石川教育長の案内で被災現場と防災計画について視察。(四中父親倶楽部)

東京都心臓病児のサマーキャンプ

医師、看護師とともに企画する心臓病児の医療キャンプは涼しい清里で。

夏の商工まつり

府中国際友好交流会は、府中の友好都市、ウィーンのヘルナルス区へ学生を派遣する事業を毎年行っています。

仮設住宅の夏祭り

南相馬の大規模な仮設住宅では、いまだに多くの方が避難生活を送っています。

気仙沼ボランティアツアー

市内の中学・高校生と漁業ボランティアを体験。短い時間ですが、子どもたちは、成長して帰ってきます。

高齢者地域支援連絡会

地域の高齢者を取り巻く課題について、地域の方々と話し合っています。

東北復興応援コンサート

東北で活動されている歌手、グループと府中市内の小中学生とのコラボレーションが実現。ラストは「花は咲く」の全員合唱。

四中防災訓練

父親倶楽部が主催する防災訓練ですが、今では1年生が全員参加します。

障害者差別解消法で変わる－その２　平成27年第一回定例会 一般質問

私は、平成25年の第3回定例会で、「障害者差別解消法」についての一般質問を行っていますが、法の施行まで、あと一年に迫りましたので、府中市ではどのような対応が検討され、取り組まれているのか、以下質問いたします。

Q 学童において、障がいのある子の登館時に大人の付添いを条件にしていたが、現状を？

A ⇒これまで、原則として大人の付き添いをお願いしていた経緯もあったが、**現在は学童クラブ指導員と学校教諭が連携し付添い**をすることにした。

Q 登館時の問題は、子どもたちを校門から下校させるため生じている。ほとんどの学童が学校と隣接していることから、校庭を通ることもできるが、教育委員会の見解は？

A ⇒安心、安全に登館できる経路であることが望ましい。**校庭を通っての登館については、小学校校長会と協議**する。

2年前の平成25年の第一回定例会で、中学校の知的固定学級の通学について取り上げました。中学校の知的固定学級が1中、2中、4中にしかないため、**新甲州街道の南側に住んでいる子どもたちが、長時間を掛けて通学**しています。また、長時間の通学が負担なため、**やむを得ず、スクールバスのある特別支援学校に通学**しているケースもあります。差別解消法が施行されますと、対応が迫られる課題ですので、事前の対応をお願いしました。

Q 小金井では、新規にスクールバスを購入するのではなく、ココバスを活用していると聞きましたが、府中において、ちゅうバスの活用は？

A ⇒コミュニティバスの導入目的に照らし、また、検討協議会でも議論がないことから、活用は難しい状況

26市中半分がスクールバスなどの対応をしています。「スクールバスも、『ちゅうバス』の対応もできない」「教室の増設もしない」など、本人や家族に負担を強いたまま、今の環境を改善しようとしないのは、障害者差別解消法の「合理的配慮の不提供」となり、障がい者差別となります。

Q 昨年度、策定された府中市の「特別支援教育推進計画」の第二次推進計画にも知的固定学級の増設を検討するとありますが、計画を変更するおつもりか？

A ⇒この計画の推進に当たり、諸条件の状況を鑑みて総合的に判断する必要があるが、知的固定学級の増設については、**今後の児童・生徒数の推移を見極めながら、新甲州街道以南への増設を検討**する。

障がいによる不利益を本人や家族に求める考え方から、さまざまな障壁を社会の負担で取り除く。それが社会の責務であるという考え方が権利条約の批准とともに定着していかなければなりません。

Q 学校において、障がいのある子の介助のために、親が付き添うケースがあります。法律の施行を待つのではなく市の対応が必要では？

A ⇒障がいのある児童・生徒の介助について、保護者に介助いただいているが、保護者の負担に配慮が必要なことから、**通常の学級に在籍する児童・生徒に介助員を配置**する。

これは長い間の課題に対し、親御さんが中心になり、多くの方の支援を受けて、実ったものです。**大きな一歩が踏み出されたと思っています。高く評価したいと思います。**

Q 最後に、市立幼稚園に入園の際、身辺自立を条件にしていると聞いています。障がいのある子が入園できない状況ですが、見解を？

A ⇒市立幼稚園としては、障害者差別解消法の趣旨から、障がいのあるお子さんも入園できる施設であることが望ましいが、廃園、縮小の方向性もあり、今後は、**集団活動のできる軽度の障がいのあるお子さんの安全確保を努めながら対応**する。

少し、意識を変えていただかなくては、ならないと思っています。
「さまざまな制約があるので、障がい者に対する不利益な環境を改善できません」と言うのではなく、その制約を乗り越える工夫が求められているということ。これが「合理的配慮」であって、難しいからといって変更を加えなければ、障がい者差別となってしまいます。さらに、**権利条約を批准した以上、この判断基準も世界水準が求められています。**ハードルは確実に上がっています。

山上みのるプロフィール　1956（昭和31）年生まれ・59歳

府中市出身・寿町在住／府中一小・一中卒業／早稲田大学高等学院・早稲田大学法学部卒業

【主な経歴】

- 保護司
- 民生委員・児童委員
- 安立園評議委員
- あけぼの福祉会理事
- 社会福祉協議会評議員
- 府中四中学校運営連絡協議会委員
- 少年補導員
- 府中市立学校評価委員
- 府中囃子保存会常任理事

【主な地域活動】

- 府中囃子保存会寿町支部会長
- 府中四中父親倶楽部
- 復興支援隊☆チーム府中